

2019 年台風 19 号における住民の避難の実態 ～宮古市白浜地区および釜石市佐須地区を対象として

岩手大学農学部 ○石戸みさと 青木佳音 熊谷誠 井良沢道也 北海道大学 厚井高志 青森県庁 金俊之

1. 背景と目的

令和元年 10 月に発生した台風 19 号は東日本を中心に広い範囲で記録的な大雨をもたらした。岩手県内では沿岸部を中心に土砂災害が多数発生し、孤立する地域がみられた。行政は早期段階から避難を呼びかけていたが、岩手県内での避難率は 2%以下であった。この結果を踏まえ、本県では今後の防災対応力向上に向けて地域の防災力の向上を取り上げている¹⁾。

本県では避難しなかったために犠牲になった住民はいない。また、本台風は事前に予測がされていたにもかかわらず、避難率が高くなかった理由などについては明らかでない。そこで、本災害時の住民の避難行動について、被害の大きかった地区を選定して明らかにすることとした。

2. 調査方法

災害時の状況について把握するため、行政機関（岩手県、宮古市・釜石市等 4 市町村）への聞き取りを行った。聞き取りの結果から、人的被害はなかったものの県内でも土砂災害被害の大きかった宮古市白浜地区および釜石市佐須地区において住民聞き取り調査をすることとした（図 1）。同地区の区長・地区防災役員らへの聞き取りも事前に実施した。住民聞き取り調査は 2020 年 9 月 12 日から 14 日に宮古市白浜地区（62 世帯）および釜石市佐須地区（24 世帯）で実施した。両地区とも三陸沿岸半島部の漁港であり、指定避難所までの距離はそれぞれ、11km 9km である。

3. 結果と考察

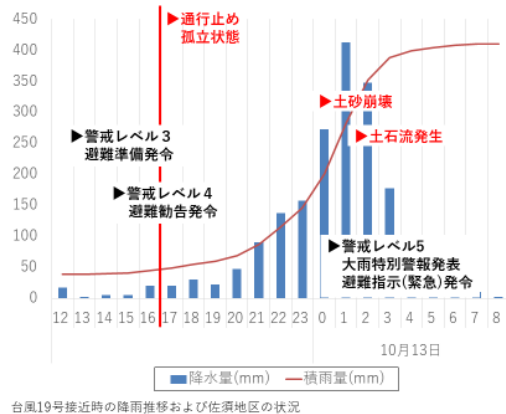
調査の結果、2 地区の土砂災害の実態と住民の避難行動が明らかとなった。白浜地区では 10 月 13 日午前 1 時半ごろに土石流が発生し、8 軒が全壊した（図 2）。さらに、地区内を流れる白浜川が氾濫したことで土砂が下流集落に流れ込んだ。計 50 軒の住居が被害に遭った（図 3）。道路が土砂で閉塞され集落が孤立した。当時の避難先は赤前の指定避難所、宮古市内の親戚の家、自宅待機の 3 つのパターンに分かれた。また、地区内に残った人でも、近所に避難または二階へ避難（垂直避難）を行った住民がいた。地区の消防団と自治会で約 60 世帯を回って避難の呼びかけに加え、13 日 15 時には希望者 9 名を指定避難所まで車で連れて行った。その後避難所で一晚を過ごした。一方、白浜地区はほぼ地区全体が土砂災害の危険区域であるのに対し、避難しない人が 64%と多くいた。幸い全壊した家の住民は全員避難していたが、土石流に巻き込まれた住居の向かいなど、十分にリスクがあったにも拘らず避難していなかった住民がいた（図 3）。佐須地区での主な被害は全壊 1 軒、半壊 3 軒などである。犠牲者及び負傷者はなかった。白浜地区では 13 日夕方頃には集落内の道理が通れなくなっており、13 日午前 0 時ごろに一斉に土砂が氾濫し集落の孤立が発生した。本地区も 42%の住民は避難していない（図 4, 5）。両地区とも避難形態として「事前避難」「切迫避難」の 2 つに分けられる（図 6）。避難のきっかけとしては、白浜地区では「地区長・消防団からの呼びかけ」が最も多く、佐須地区では「周囲の状況により判断」が多い。両地区とも「行政からの呼びかけ」、「雨の降り方」などにより判断した住民も多い。避難しなかった理由では、白浜地区では「災害が発生するとは思わなかった」が多く、両地区とも「避難所に行くのが大変である」、「消防団の活動がある」との回答が多かった。一方、自宅が危険な場所にあることを認知しても避難行動に結びつかなかったことが明らかになった（図 7）。

4. まとめ

調査した 2 地区とも全壊した家の住民は全員避難していた。白浜地区では地区の消防団と自治会で、希望者 9 名（全壊 8 戸に居住）を指定避難所まで車で連れて行ったことが犠牲を出さなかったことにつながった。



図 1 調査対象地 (Google Map より) 図 2 白浜地区における全壊家屋 図 3 白浜地区斜め写真



台風19号接近時の降雨推移および佐須地区の状況

図 4 白浜地区の避難の推移

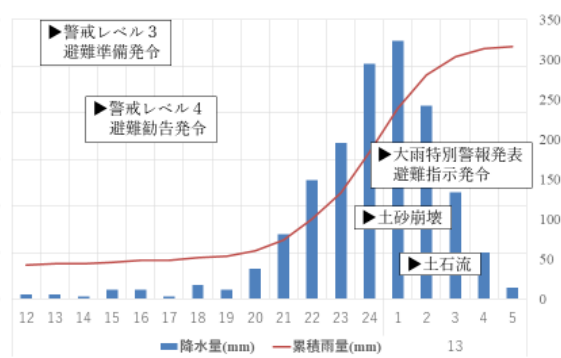


図 5 佐須地区の避難の推移



図 6 避難を開始した時間



図 7 被害の予測と避難行動

【謝辞】本研究を進めるにあたって、宮古市白浜地区、佐須地区の皆様ならびに関係各位にご協力いただきました。深く感謝申し上げます。 参考文献 1) 岩手県総合防災室：令和元年度台風第 19 号災害対応振り返り報告書，2020 年 3 月